



【代表選考会】神戸 SSH 生徒研究発表会 出場代表選考プレゼン会を開催しました

5月13日(水)理数探究の時間に本校理数科3年生の希望者の中から、神戸国際展示場で毎年開催されている「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」に本校を代表して出場する研究班を決定する研究プレゼン会を開催しました。

今年度は全10班中7班の応募があり、理数科所属の決まった2年生当初より、皆が目指して意欲的に理数探究の研究活動に取り組んで来たことがうかがえました。

すべての班が2月の中間発表会での内容からきちんと発展させており、正直どの班が代表に選出されても十分に全国の舞台上で堂々と成果を発表することができそうでしたが、代表班は中高生向けの小型風洞実験装置の開発と普及を目指している班に決定しました。

彼らは3月に開催された「つくば Science Edge」にも参加し、フロアポスター賞を受賞しております。神戸で開催される発表会は8月の5日、6日が本番になります。そこまで残り約2ヶ月、さらに実験を重ね本番に臨みます。今後も彼らの活動を応援ください！



【新企画】探究Ⅱ・Ⅲ異学年交流会を開催しました

4月17日(金)に普通科2年生の「探究Ⅱ」、3年生の「探究Ⅲ」の共同企画として初となる「異学年交流会」を開催しました。本企画の目的は、3年生が前年度に活動してきた探究について、①テーマ選定の理由と決定後どの様に探究活動を行ってきたか。②探究を進めるに当たって、苦労した点や改善すべきだった点。③発表会に向けてどの様に準備を進めていくとより良くなるか。などについて先輩から後輩へアドバイスを送る会となりました。

普通科の先輩方の中にも、外部発表会へのエントリーをしている班や、企業や一般の方々に直接ヒアリングなどを実施して探究活動を進めてきた班もあり、自分たちが達成できなかった部分について、同じような興味関心のある後輩に引き継いで貰えるように一生懸命プレゼンしている班も見られました。





理数科の「理数探究」よりも生徒たちが設定する探究テーマはジャンルの幅が広がっています。身近な課題について取り組む班や、日常生活の中にあるサイエンスなテーマにチャレンジする班もあり、2年生もそれぞれの興味関心に合わせて、様々な先輩方の探究のお話に真剣に耳を傾けていました。

2年生もテーマとするジャンルや、リサーチクエストがそろそろ具体化し、探究活動がスタートします。「好きを極める」「疑問に真正面から挑む」「困り事を解決する」…探究には1個の【正解】が無いからこそ、自分たちが何を突き詰めたのか？そしてその先に自分たちがどう在りたくて、どうなりたいたのかが大切です。1年生で学んだ科学的プロセスやスキルを存分に活かして「自分たちの納得解」を導き出せるよう、頑張っていきましょう！

【授業公開】今年度初回のクロスカリキュラム授業実践

5月16日(土)の授業参観に合わせて、今年度1回目となる「クロスカリキュラム」授業実践の公開を行いました。今回は①体育×物理「共同作業でボールをキャッチ！-軌道を予測し実践しよう-」と、②数学×公共『偏り』の正体を可視化せよ-ローレンツ曲線で読み解く日本の諸課題-」の2つの授業になります。

<①体育×物理「共同作業でボールをキャッチ！-軌道を予測し実践しよう-」>

物理で学ぶ「鉛直投げ上げ」と高校1年生の体育で学ぶ「集団行動」とを組合わせたクロスカリキュラムです。「4人グループで約1㎡のシートの四方を持って、鉛直投げ上げにおける変位の時間変化を予測し、8.0m先で投げ上げられたボールを4人で走ってシートでキャッチする」という課題について行われました。

球技におけるこれまでプレイヤー自身の感覚での認知に依存していたボールの落下予測等について、本クロスカリキュラム授業を通して法則や定義に基づいて学ぶことができました。



<②数学×公共『偏り』の正体を可視化せよ-ローレンツ曲線で読み解く日本の諸課題-」>

都道府県のような様々な統計データを用いて、累積人口比と累積指標比の関係をグラフ(ローレンツ曲線)や数字(ジニ係数)として可視化・算出して、社会の偏りを客観的に分析する思想を深化させることを目指したクロスカリキュラムです。データの解析等他者との協働の中で考察を深めることは、SSHや探究活動の中でも大切なスキルの1つです。それらを学べる大変有意義なクロスカリキュラム授業でした。



【コラム】SSH校がドラマのモデルになりました

みなさん、現在フジテレビで放映されているドラマ「サバ缶、宇宙へ行く」をご覧になっている方もいらっしゃるかも知れません。あのドラマのモデルになったのは福井県立若狭高等学校というSSH校です。長年探究学習の開発や実践に注力されており、ドラマの中でも探究を通して生徒が、困難に立ち向かったり、改善したり、PDCAサイクルを回したりという姿が描かれています。探究に本気で取り組んでいると共感できる点多々あるかと思います。もしお時間のあるときには視聴してみるのも良いかと思います。